

演題：私はこちらやっている
所属：さいしょ糖尿病クリニック
氏名：税所 芳史 先生

第80回全国臨床糖尿病医会学術集会 日時:2025年9月6日(土) 会場:第一ホテル両国5F 北斎

私は栗原義夫先生のご推薦により2022年より本会に入会させて頂きました。本発表では自己紹介を含めて、私のこれまでの取り組みについてお話しさせて頂きました。

私は1998年に医学部を卒業し医師となったが、研修医として糖尿病患者を診療していく中で、日本人には非肥満の2型糖尿病患者も多く、当時「肥満、インスリン抵抗性、高インスリン血症」で表現される2型糖尿病の病態に疑問を感じていた。

そんな中、2003年に米国のButler教授の「2型糖尿病では肥満者も非肥満者もβ細胞量は減少している」という発表を聞いて、目から鱗が落ちる思いがした私は、周囲のサポートも頂き2006年からButler教授のもとに留学させて頂いた。

Butler教授のもとで私はヒト肥満者におけるβ細胞量の変化に関する組織学的な検討を行い、Diabetes Care誌に報告した¹。また、2009年に帰国後は慶応大学で研究を続け、日本人肥満者におけるβ細胞量についての報告を行った²。

これらの検討から糖尿病の発症予防や治療にはβ細胞を過剰な負荷から守ることが重要と考え「beta cell workload hypothesis」と名付け³、より早期からのきめの細かい治療が重要と考えようになったことから開業を決意。

2022年にクリニック開設後は「β細胞保護」の重要性を患者さんにも伝えるために、ホームページに解説を載せ、スタッフ全員でその考えを共有し患者さんを中心とした治療に努めている。患者さんもホームページを見てから来院することで、治療に対するモチベーションが高まっていることを実感している。

これからも糖尿病の早期発見、治療、そして予防を目指して「β細胞保護」の考えを広く普及させていきたいと考えている。

1. Saisho Y, Butler AE, Manesso E, Elashoff D, Rizza RA, Butler PC. b-Cell Mass and Turnover in Humans: Effects of obesity and aging. Diabetes Care 2013; 36(1): 111-7.
2. Kou K, Saisho Y, Satoh S, Yamada T, Itoh H. Change in beta-cell mass in Japanese nondiabetic obese individuals. J Clin Endocrinol Metab 2013; 98(9): 3724-30.
3. Saisho Y. Changing the Concept of Type 2 Diabetes: Beta Cell Workload Hypothesis Revisited. Endocrine, metabolic & immune disorders drug targets 2019; 19(2): 121-7.

1

糖尿病

1型糖尿病

β細胞の破壊
β細胞量↓↓
インスリン分泌能↓↓

2型糖尿病

肥満？
インスリン抵抗性？
高インスリン血症？

2

当院の取り組み

「β細胞保護」の重要性をどうやって患者に届けるか

- 糖尿病教室(慶応大学病院)
- ホームページ(「糖尿病内科について」)

糖尿病は治らないの？

糖尿病は、ポリプのように取って治るような病気ではなく、「うまく(上手に)付き合っていく」病気です。

それではなぜ糖尿病は治らないのでしょうか。

糖尿病患者さんでは膵島のβ細胞の量が減っている(β細胞の数が少なくなっている)ことが知られています。

β細胞が糖尿病患者さんで減ってしまう理由についてはまだはっきり分かってはいませんが、おそらくβ細胞の「働き過ぎ」が原因ではないかと考えられます。そもそもβ細胞

- 看護師・管理栄養士との考え方の共有・連携